

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症高齢者グループホーム「ぬくもりの家」
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県石巻市
記入者名 (管理者)	高橋 厚子
記入日	平成 20年 6月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居前から関わってきた方々や地域の方々との関わりを持ちながら、安心して、その人らしく、生き活きと暮らせるよう支援している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>スタッフ会議等で、管理者とスタッフで話し合い、実践に向け取り組んでいる。また、玄関や面談室、事務所に理念を掲示し、いつでも目に付くようにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>スタッフ会議で話し合い、検討したものを運営推進会議で、家族や地域の方と共に、理念について話し合っており、出席されない方々にも報告している。理念は、玄関や面談室に掲示している。さらにもっと知っていただくために、季刊紙を発行することとし、併設施設と協力し準備を進めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買物の時、お会いした方に、入居者と一緒に挨拶したり、近況を教えていただいたりしている。併設の特養やデイサービスとは、お互いに時々交流をしている。昨年の秋には、入居者の展示会を利用し、普段来ていただけないような親類の方々にも声をかけ、来所して頂いている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区の盆踊り・公民館や市主催の文化祭や行事に、職員と入居者で積極的に参加している。また近隣の方々には、地区の小学生と行事を計画したり、老人会や地域の方に声を掛け、芋煮会やカラオケ大会等事業所の行事に参加していただいている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成として、実習や見学研修の受け入れを積極的に行っている。また、地域密着型サービス運営委員として会議に参加している。入居希望の方の随時見学や相談も受けている。		
3. 理念を実践する為の制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内部研修として、半年に一度程度自己評価を行い、日々のサービスに生かせるよう意識付けを行っている。また、日常のサービスの中での気づきやアイデアを皆で検討し、良いものは取り入れる、やってみて改善する等行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みや改善について報告し、話し合いをすることにより、サービスの向上に活かしている。昨年は、運営推進会議で地域の方々が参加できる行事を企画し、実施した。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	石巻市の介護保険課や稲井地域包括支援センターに、法律の考え方等を尋ね指導を頂いていることが多い。昨年は、事業所での入居者の絵の展覧会には声をかけ、足を運んでいただいた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	まもり一歩・生活保護を利用している入居者がいる。研修や説明会に参加し、研修後職員に伝達している。また、資料をいつでも見られるようなところに置き、職員が必要に応じて閲覧できるようになっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修後、職員に伝達しており、ほぼ理解している。引継ぎ時やスタッフ会議でケアについて話し合うことで、自然に防止に繋がっており、施設内で全く虐待はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の時点で運営方針を説明し、重要事項説明書を使って説明し、尋ねられた際は、随時説明している。契約時には、ケアの考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は、家族・知人との面会時や電話等自由に話せており、職員にも話せるので、その内容をケアに活かすことが出来る。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や利用料の支払いで来所された時、生活の様子・健康状態を口頭で話し、月に一度書面での生活の様子・金銭の使用状況をお知らせしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から話しやすい雰囲気を作っており、話した内容や不満・苦情を要望と捉え、スタッフ会議で話し合い、実現できるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・内部研修等それぞれ隔月に開催しており、意見を聞くようにしており、自由に意見を出し合っている。毎日の引継ぎ時も同様である。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者が自由に生活できるよう起床・就寝・夜間入浴等ができるようローテーションを組んでおり、必要に応じて勤務日や勤務時間帯の変更をし、調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族と信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、法人内の定期異動は安易に考えていない。やむを得ず異動や離職がある場合も、その時期や引継ぎの面でも最善の努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の学習会や研修に、なるべく多くの職員が参加・受講できるようにしている。研修後は、スタッフ会議等で伝講し、日常の仕事に活かしている。資料はいつでも閲覧できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム連絡協議会に加入しており、ブロック会議やその他研修に全職員が交代で参加しており、日々の悩みの相談をすることで、ストレスの解消やサービスの向上・意欲の向上に繋がっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員の表情や態度から体調や精神状況を把握し、一人ひとりに会った声掛けをしたり、話を聞いたりし、職員同士でも行っている。また仕事のストレスは、入居者の対応がうまくいかなかったり、疲れ過ぎていたりした時に多いようであり、ブロック会議で相談したり他の方の話を聞くことでだいぶ解消されるようである。毎日の休憩時間についても、その日の出勤者で状況に応じながら相談し、交代で、または、同時に休憩できるようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長・事務長は頻繁に現場に来ており、入居者と過したり、職員に声をかけたり、入居者・職員の様子を把握している。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や申し込みの時点で12のように説明している。また、実態調査の時点で、具体的な入居希望者や家族の話聞き、納得頂けない時は何度か足を運び、馴染みの関係をつくる等努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	23におなじ。事業所の具体的な様子を話したり、事業所で対応できること出来ない事を具体的に話し、またその時は、どのような支援をするのか知っていただくことで不安を取り除くように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に入居が必要で相談のあった方には、他の事業所の紹介をする時もある。また、相談によって当事業所で対応できるものについては応じ、できないものについてはできる方法を提案することもあり、あとは家族・本人の(本人が難しい場合が多いのでほぼ家族になるが)意向を確認し、対応を進めていく。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人自身が入居拒否であるが、しかし独居困難の為に入居しなければならない状況の方に、利用前に何度か足を運び、記憶に障害があっても、みたことがあると記憶していただいでから入居していただいている。本人・家族と相談しながら、以前からの馴染みのものを置いたり、持ってきて見せていただいたりし、馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個別に外出・お茶飲みをしたり、同じ場所で過ごす時間を多く作り、入居者の得意なことを把握した上で、縫い物・編み物・女の道等や作業についても相談したり、こつを伺ったり教えていただけるよう声掛けを工夫している。	○	特に時間を作らなくても自然に一緒に時間を多く持てるよう配慮していき、さらに入居者が充実し、生活できるように努力している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況をまめに伝えることで、様子を知っていただき、どのように支援していったら良いか相談しており、一緒に考えている。そのほか、入居者の通院時職員もできるだけ同行し、生活の様子を話している。施設の行事には、家族の仕事も考慮した上で声掛けを行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の家族との関係を把握し、一緒に外出や外泊を支援したり、行事参加に声をかけ、良好な関係が継続していけるよう取り計らっている。また、関係の適切でない家族には、平静な気持ちで接することができるよう、同じ場所に職員も立会い、仲介をする等の努力をしている。良好な関係の家族の面会時は、ゆっくり過していただけるよう気を配っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真を使った回想やふるさと訪問はもちろん、昔からの馴染みの美容院を利用したり、知人との外出や来訪、昔住んでいた家への草取り外出・お墓参りの支援も行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同志気の合う方でテレビを見たり、外出したり、お互いの居室を訪室しあったりと、仲の良い方と共に過ごす時間や場所を大事にしている。また、どうしても他の方から好まれない方や性格上一緒にいるのが苦痛だったりする方には、職員が寄り添うことも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に移られた方には、職員が会いに行ったり向こうから訪ねてきたり、家族と訪ねてきたりと交流を続けている。また、行事には、元いた施設の仲のよかった方に声をかけ、来ていただいたり、夏祭りに招待され行ったこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位に暮すことができるよう、入居者の何気ない言葉を聞き逃さないようにし、言葉や表情・行動を元に、意向を把握している。本人から何うのが難しい方はもちろん、家族からも意向や情報を伺い検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん、入居後もバックグラウンドの把握に努め、生活歴・馴染みの暮らし方に応じた生活ができるよう支援している。入浴の時間や食事の仕方などにも個別でサービスしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の生活の様子を把握し、ケース記録や健康記録に残し、毎日、朝晩の引継ぎで伝えていくことで職員全体で把握し、ケアにつないでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人の意向を確認し、家族に入居者の状態やニーズを伝え、家族の希望をうかがった上で、月に1回のケアカンファレンスをし、本人に何が必要なのかをその人らしく捉え、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン実施状況表で状況・効果を把握し、概ね季節ごとに(3ヶ月に一度)見直しを行い、状況が変わった方には、その都度見直しをし、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に、本人の言葉やエピソードを入れた生活状況を記録し、いつでも職員が確認できるようにしており、さらに詳しいところは口頭で引継ぎ等で伝達し、情報を共有している。介護計画の見直し時には、本人に合った様々なアセスメント用紙を使い、さらに情報を集めた上で、職員の気づきやアイデアを元に介護計画の見直しを行っている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院やお試し長距離外出等柔軟に対応し、個々の満足が高まるようできるだけ協力している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の希望に応じ、地域の講演会や展覧会・野球観戦等に参加したり、避難訓練には民生委員の方や近くの消防団の方々が来てくださる等、地域の資源を利用しながら支援している。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性等により、地域のケアマネジャーと話し合いをし、必要なサービスが使えるよう、他の施設と調整を図る等支援している。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員に参加して頂いている。また、周辺の情報や支援に関する情報の交換等を行い、協力関係ができています。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望があり、個別の係りつけ医を受診している。基本的には家族付き添いになっているが、必要に応じ職員の同行や代行も柔軟に行っている。また、職員が付き添えない時は、身体状況や生活状況・その他の記録を家族に渡している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議や引継ぎでかかわり方等を確認しており、気づいたら直し、特に言葉使いや態度・排泄の介助について等、入居者一人ひとりに適切な関わりになるよう日々のケアに活かしている。	○ 常時意識して取り組んでいきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活のあらゆる場面で、希望・関心・嗜好を見極め、伝えやすい雰囲気をつくり支援している。(出前のメニュー選び・選択おやつ・居室での食事・買物・外出・散歩・衣類・ヘアスタイル等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人の希望を優先し、趣味活動・買物や散歩等一人ひとりの状態や思いに対応している。	○ 急な外出等どうしても断ってしまうことがあるので、常時対応できるよう意識して取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容をお願いしたり、希望があれば職員が散髪をしたり、いきつけの美容院に行ったりしている。マニキュアを塗ったりオシャレを楽しんでいる。衣類の選択については、本人が決めており、自分で決められない方には職員が一緒に決める等支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の時食べたい物を選んでいただいたり、野菜の下ごしらえや盛り付けをしていただいている。後片付けは、各入居者ができることをそれぞれ行っている。(食器拭き・食器収納・米とぎ・テーブル拭き・床の食べこぼし清掃・布巾たたみ等)また、職員と同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。好きなメニューを選んで出前を取ることもある。たまに、おやつ作りをすることもある。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事の時、好きな方にお酒を提供する。おやつの好きな方には本人用のおやつを別に用意しており、食べたい時に提供している。また、花の好きな方には外出した際、一緒に選び鉢植えを居室に置いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、またサインを見逃さずトイレへ誘導することで、トイレでの排泄ができるよう支援している。排泄チェック表に記入することで、さらに排泄のパターンを確実なものにする。自立できるぎりぎりのところまで頑張ってもらい、尿取りパットを使用することで安心して生活できる方には使ってもらい、個人個人に合わせ対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を行い、入浴したい日や時間帯の希望のある方に、希望通り対応できている。また、入浴をあまり好まない方には、声のかけ方を工夫したり、タイミングを見て入浴支援している。入浴の仕方についても本人の希望に応じ、一人で行っていただいたり状態に応じ介助を多くしたりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲労感がみられる時は声をかけ横になっていただく等、身体を休めたい時に随時休んでもらう。午前中は日光を浴びて活動的に過ごしていただき、夕方に備え、身体を休めていただく。夜間には個人の希望の就寝時間に休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	残存能力や希望で、それぞれ役割活動を持って生き生きと活動している。職員から御礼を言われることで生きがいにもなっている。楽しみごととしては、みんなでの外出の計画を話し合ったり、若い頃に出かけたことを話し合うことで懐かしむこともある。自分の好きな趣味活動を行ったり、ミニドライブで気分転換を図ったり、買物に出かけたり他入居者と話し合ったり、生活の中に楽しみは多い。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望で自分で少し所持される方や職員に任せる方もある。実際の支払いの時も能力に応じ、自分で行う方と職員に任せる方がおり、一人ひとりの希望や能力に合わせた支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩・馴染みの場所や店・自宅・買物・ソフトクリームや今川焼きを食べに・花のきれいなところに・展覧会に・講演を聴きに等随時外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望に添ったミニドライブやバスハイクを行っており、話し合いの段階から楽しみにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話したり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	随時電話をかけたいとき、手紙を出したい時、できないところを支援することで、自由に行っていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人がいつでも訪ねて来られるように勧めている。面会に来た時は、ゆっくり過せるよう、居室や面談室も自由に使えるようにしている。また、家族には、せっかく訪ねて来たときに留守にならないよう、予め外出予定をお知らせしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束について、禁止行為をした場合の影響等についても職員で確認している。また、マニュアルがあり、いつでも確認できるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵を掛けていない。玄関からの出入りがあるとチャイムがなるようにしており、外部からの不審者の進入等、安全確保している。外に行きたい方には、職員が同行し、特に歩行に心配の無い方は自由にしていただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、入居者と同じ空間で過し、さりげなく状況を確認している。死角にいる方も、こまめに状況を把握している。夜間も安眠を妨げないように気をつけながら、安否確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの能力に応じて、裁縫道具やハサミ等、居室で保管されている方もいる。包丁や薬品等の危険なものについては、保管場所や保管の仕方を決め、安全に配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じ、予測される事故を検討し、事故を未然に防ぐ為の工夫を、ケアプランにあげ取り組んでいる。また、突発的なものについては、ヒヤリはっとノートに記録し、職員の共通認識を持つ。万が一の事故発生時は、事故報告書で原因を探り、今後の予防対策の検討をし、家族に説明と報告をする。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、食材の品目を考えながら提供している。食べる量や水分については個別に観察とチェック表で把握しており、職員間で情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを元に予防対策に努めている。スタッフ会議でマニュアルの確認・復習をし、併設施設と一緒の勉強会もある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的にハイター消毒・食品庫・冷蔵庫整理をしており、食品については、日付チェックを行い、安全、衛生に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近にベンチや椅子・手すりがあり、靴の履き替えが安全にでき、また、入り口付近に花を飾るなどしており、気安く出入りできるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に共用部分は入居者に開放している。廊下やリビングには、季節に応じた掲示物・装飾を施し、季節感を味わえるよう工夫している。夜間帯は、外の景色が目に入り不安を覚えないように、目線の高さ位までつuitateで目隠しをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や和室の共有空間に長椅子やソファを配置し、気の合う方とお話したりテレビを一緒に観たり一人でのんびり過ごす事ができる。また、面談室では、人に邪魔されずに絵を描いている方もいる。玄関の外にもベンチがあり、ゆっくりできる。その他、和室を昼寝に利用し、その人なりの共有空間の過ごし方をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年愛用した家具や生活用具を、自宅と同じような配置にし混乱なく生活できるよう工夫している。また本人が使い易いよう家族の方が整理をしたり飾り物を変えたりしてくれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その日の気温や入居者の状態に応じ、窓を開けたり、換気扇や空調設備を利用し調整している。また各居室内は個々の状態に応じ、微調整を行い快適に過せるように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	和室へ上がる際、安定しつかまって上がれるよう、ソファを置いている。玄関には靴の履き替えがし易いよう椅子を設置している。施設全体がバリアフリーになっており、浴槽やトイレには手すりがあり、広さも充分である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	廊下やリビングのカレンダーに印をつけることで、本日の日付けを確認できるようにしている。トイレや居室の入り口には、分かり易い表示をすることで混乱なく生活できるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関やスロープに植木や花や野菜などのプランターを置き、季節を感じて頂いたり、水やり等の世話がいつでもできるようになっている。玄関にはベンチがあり、周りの景色をゆっくと眺めて過ごす空間がある。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

《自己決定の最優先》

家に帰りたい・買物に行きたい・〇〇が食べたい等希望があった時に、希望が実現できるよう自己決定を最優先にし、生活に楽しみを持って生活していただいている。自分のしたいことをしたい時にすることで、毎日の生活にストレスを感じずに生活しており、自宅と同じように、言いたいことを自由に言える生活をしていただいている。